

藤沢周平・城山三郎・吉村昭

～1927年生まれの作家たちの文学と高い志～

「われわれの世代には、権威とか権力的なものはもうこりごりという気持ちがあるでしょう。藤沢さんにも、そういう部分がありましたね」と吉村昭は、城山三郎との対談で語っています。

1927年生まれ作家たち、藤沢、城山、吉村は、戦前・戦中における人と社会のあり方への猛省からはじめた生粋の戦後派作家でした。垂直的で残酷な人間関係を厭い、水平的で豊かな人間関係を求めた作家たちの夢と実践から、戦後が危うくなった今こそわたしたちは多くを学びたいと思います。

■日程と各回のテーマ・作家・作品名

- 第1回：9月9日（金） 集団や組織からはみだしてしまう——藤沢周平『半生の記』
- 第2回：10月14日（金） 密のごとき権力は何ももたらさなかった——藤沢周平『風の果て』
- 第3回：11月4日（金） 皇国少年はどう戦後をはじめたか——城山三郎『大義の末』
- 第4回：12月16日（金） 苦しみのなかにこそ喜びあり——城山三郎『辛酸（足尾鋇毒事件）』
- 第5回：1月13日（金） 教訓はついに活かされなかった——吉村昭『三陸海岸大津波』
- 第6回：2月10日（金） クライマックスを排した歴史もの——吉村昭『天狗争乱』

■時間： 毎回14時から16時まで

■会場： 所沢まちづくりセンター 中央公民館 学習室8・9号

■講師： 高橋 敏夫先生（早稲田大学文学部・大学院教授）



文芸評論家。学生時代から類まれな文芸評論で注目され、その後も社会事象や映画、マンガ、文芸、音楽、演劇など幅広いジャンルを素材に鋭い現代評論を展開する。学部での講義は、学生アンケートで「早稲田で一番面白い授業」に選ばれた。

カルチャーセンター、公民館等での講演は年間100回に近い。

著書：「藤沢周平—負を生きる物語」「藤沢周平と山本周五郎—時代小説大論議（佐高信との対談）」「井上ひさし—希望としての笑い」「時代小説は行く！なかまの再発見」他多数

■参加費： 3,000円（6回分） ■定員： 60名（多数の場合は抽選）

■申し込み方法： 往復はがき（1人1枚）に、氏名、性別、住所、電話番号を記入のうえ、
7月31日まで 下記宛にお申込み下さい。

〒359-1162 所沢市和ヶ原2-200-24 佐藤 八郎

■お問い合わせ： 佐藤 八郎（サークル「漆の実」代表）TEL：04-2948-8247

■主催： サークル「漆の実」（昭和の小説及び作家を通じて文学に親しむサークル）

藤沢周平（1927年12月～1997年1月）山形県鶴岡市出身、山形師範学校卒業

1973年「暗殺の年輪」で直木賞 1986年「白き瓶」で吉川英治文学賞

城山三郎（1927年8月～2007年3月）名古屋市出身、一橋大学卒業

1959年「総会屋錦城」で直木賞 1975年「落日燃ゆ」で吉川英治文学賞

吉村 昭（1927年5月～2006年7月）東京都荒川区出身、学習院大学中退

1979年「ふおんしーぼるとの娘」で吉川英治文学賞 1994年「天狗争乱」で大佛次郎賞